

☆ 総合授業力リーダー「名場面集」 ☆



「さぬきの授業 基礎・基本」

～子どもに学びのときめきを～

実践事例集別冊Ⅲ

平成28年3月
香川県教育委員会

目 次

I はじめに	1 p
--------	-----

II 名場面集

○さぬきの授業 基礎・基本 I—1	
「豊かな表情は学習意欲を引き出します」とは?	2 p

○さぬきの授業 基礎・基本 I—2	
「精選し、計画的、意図的に発問・助言する」とは?	4 p

○さぬきの授業 基礎・基本 I—4	
「発言を取り上げ、学級みんなのものにする」とは?	8 p

○さぬきの授業 基礎・基本 I—6	
「学習過程や結果が分かる板書」とは?	10 p

○さぬきの授業 基礎・基本 I—8	
「グループ学習によって効果が上がる」とは?	11 p

○さぬきの授業 基礎・基本 II—1	
「考える力を育成するための言語活動を充実する」とは?	17 p

○さぬきの授業 基礎・基本 II—2	
「話合いの課題を明確にする」とは?	27 p

○さぬきの授業 基礎・基本 II—3	
「子どもを学習に向かわせる教師の関わり」とは?	32 p

III おわりに	34 p
----------	------

I はじめに

本冊子は、「さぬきの授業 基礎・基本～子どもに学びのときめきを～」(平成25年3月 香川県教育委員会発行)に書かれている指導技術の基礎的・基本的な内容を総合授業リーダーの先生方が、小・中学校の現場で具現化した実践を「名場面集」として紹介する事例集です。

総合授業リーダーとは、県教育委員会が委嘱している教科等の授業力の高い先生方のことです。平成27年度は、下記の案内を配布し、特定の教科等(小学校:国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、学活 中学校:国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、道徳、学活)計32名の総合授業リーダーに、県内教員の授業力向上に資するため、授業を公開していただきました。公開授業は大変好評で、参観者の数も年々増えています。

本冊子で紹介している事例や、その基となる「さぬきの授業 基礎・基本」をご覧ください、日々のさらなる授業改善に役立てていただけることを願っています。

わくわく わかる わらい 3つの「わ」がある授業は、みんなを元気にします 総合授業リーダーの授業を参観しませんか?

教師の最も重要な仕事は「授業」です。

授業力を高めるには、優れた授業を数多く観て具体的なイメージを得ることが大切です。



香川県教育委員会では、授業力の優れた先生方に「総合授業リーダー」を委嘱し、公開授業と授業討議をお願いしています。

子どもたちが学びの「ときめき」に胸躍らせる、そんな授業を創るための一歩を、総合授業リーダーと一緒に踏み出してみませんか。



- ※ 参観を希望する場合は、公開授業の1週間前までに当該校へ電話で申し込んでください。
- ※ 参観当日は、「さぬきの授業 基礎・基本」をご持参ください。

【参観者の声】

- 「教師の本気が子どもを変える」という教師の構え、構造的な板書の仕方等、大変参考になりました。
- 教材開発や授業終末のまとめなど、悩んでいたことについて、よく分かりました。
- 普段の取組の成果が子どもの姿として現れていました。
- 「自分が心を動かされるものしか提供しない」等、リーダーの先生の信念に、深い感銘を受けました。

Ⅱ 名場面集

視点Ⅰ－１ 教師の表情、話し方

「豊かな表情は学習意欲を引き出します」とは？

高松市立玉藻中学校 富田 武志 先生

中学校第3学年 保健体育 「ネット型（バレーボール）」

【授業の概要】

ゲームを経験しながら繰り返し練習して技能を高め、仲間と声をかけ合い、協力することを通して、自分の役割を自覚し、得点を獲得する喜びを味わい、学習意欲を喚起する授業

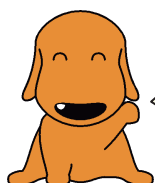


- 一人一人の子どもに対して常に肯定的で温かい言葉や称賛を心がけるとともに、「仲間の失敗を責めない」「チームに貢献したプレーを認め合う」等の態度の内容を確実に指導し、支持的な雰囲気がつくられていました。
- 教師の表情や話し方は、子どもの学習意欲に影響を与えます。富田先生は共感的で親しみの湧く言葉がけに努め、子どもの運動への愛好的態度や仲間との肯定的なかかわりを生み出し、学習意欲を引き出していました。
- ICT 機器や学習カード等を活用し、本時の学習課題を解決するために必要な作戦を立てさせ、チーム内で主体的に学習に取り組む態度を高めていました。



こどもスゴイ！

学習課題の解決に向けて、ポイントを押さえて簡潔に説明をしたり、発問を整理したりすることによって基礎的・基本的な事項を確実に習得させています。



中学校第1学年 技術・家庭 「バランスのとれた食生活を考えよう」

【授業の概要】

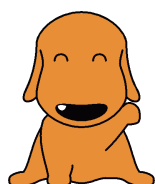
写真を用いて1食分の献立を作成し、その献立作成の理由をグループで話し合う活動を通して、献立の条件を理解し、調理実習や自分の食生活に役立てようとする気持ちを高める授業



- 全校生と「家庭科の3楽習」(①授業ができて、分かって楽しい ②今日習ったことが家庭で生かせるかもしれないという気持ち ③次の授業が楽しみ)を共有し、互いに大事にすることを授業の約束としています。



- 「**笑顔、称賛、励まし**」を心がけて子どもたちと向き合っていることで、安心して学べる雰囲気がつくられていました。例えば、授業規律等の指導や注意はするけれど、最後はプラスになる終わり方ができるように、たくさんの小さな称賛をしています。注意をされたままで授業が終わらないので、子どもの気持ちが楽になり、上向きになります。
- 「次はもっとできるよ。」という言葉かけなど、常に「**子どもを信じているよ**」という**教師の姿**が印象的でした。子どもの反応を予想し、細やかな配慮や言葉かけによって子どもをその気にさせる技術が随所に見られました。



こどもスゴイ!

一人一人の子どものつぶやきを聞き逃さず、授業展開に取り込むことで、発言した子どもの参画意識を高め、集中力を持続させています。

視点Ⅰ－２ 発問・助言

「精選し、計画的、意図的に発問・助言する」とは？

高松市立中央小学校 青木 隆明 先生

小学校第4学年 道徳 「本当の親切ってなんだろう」

資料：心と心のあく手（「わたしたちの道徳」）

【授業の概要】

主人公の行動や心情の変化や気づきをもとに話し合う活動を通して、相手の現状や立場を理解し、適切な方法を選択しながら進んで親切にしようとする心情を育てる授業

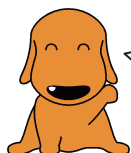


- 「今日は本当の『親切』について考えよう」と中心価値にストレートに迫り、どんなときでも親切にするという子どもの発言に対し、**「断られても？用事があっても？」等と投げかけ、理由等を補足説明させていました。**
- 本時子どもたちに考えさせたい内容が明確で、導入時には、「配り係ではないけれど、配る」「ランドセルを運んでくる」「ドリルをしている人に答えを教える」といった**内容に関わる子どもの日常生活の場面**を紹介し、方向付けをしていました。
- 「Yes-No カード」「ハートカード」「ふせん」等を利用し、話し合いが効果的に行われていました。終末部のまとめでは、どの子どもも今の自分よりももっとよくなろうとしていることが書けていました。



こどもスゴイ！

子どもの発言に対して教師が常に的確に反応しており、教師と子どもとの信頼関係の中で授業が進められています。



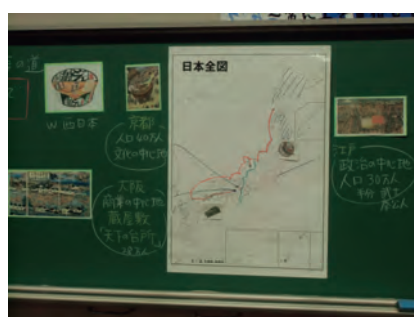
中学校第2学年 社会 「天下泰平の世の中」

【授業の概要】

江戸時代と今の生活とのつながりをきっかけに、江戸時代の街道や航路を示した地図や絵画史料などの資料を活用して検証し、時代の特色をとらえる授業



- 同じ商品名の東日本の鰹だし、西日本の昆布だしの2種類のカップ麺を用意し、子どもが食べ比べてその違いを発表する場面から授業が始まりました。西角先生は、歴史的分野の授業でも、常に子どもの身近な生活との関連から授業をつくろうと努力されているそうです。子どもたちは、高い関心をもち楽しそうに授業にのぞんでいました。
- 現在も昆布がとれないはずの沖縄県で消費量が多いという子どもの認識のずれを、学習課題「なぜ、北海道の昆布が西日本で多く消費されているのだろう」につなげていました。



- **発問が簡潔なため、子どもが何を考えればよいか、何をすればよいかを常に自覚**できていました。また、**子どもの発言やつぶやきをつなげたり捨てたり**しながら、「なぜ?」「どうして?」「〇〇をキーワードに考えてみては」「ヒントは・・・」と**テンポのよい発問や助言**で、子どもの思考や意欲が途切れずに展開されていました。



こどもスゴイ!

考えたり活動したりする場面と教える場面が明確で、授業にメリハリがあります。授業の中で意図的に教える場面を設定することは重要です。

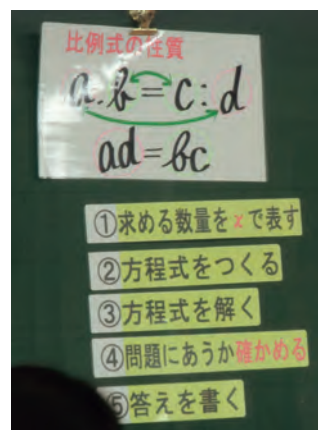
中学校第1学年 数学 「一次方程式」

【授業の概要】

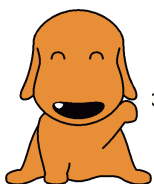
比例の関係を基にして、お菓子作りに必要なバターや小麦粉の量を求めたり、比例の関係にある別の数量を見いだして、1合分のおよその米粒数を求めたりする授業



- 「米1合。何粒あるかな？」と実物を見せて問いかけ、米粒の数を予想させることで、**子どもたちの「考えてみたい」という気持ちを高める**ことができていました。また、「何が分かたら求めることができるかな？」と問いかけることで、**子どもたちに解決の見通しを持たせる**ことができていました。
- 教科書の練習問題であっても、問題文に登場する物品を実際に示すなど、子どもの興味を引き、意欲を持続させる工夫が随所に見られました。
- 表情豊かに子どもの目を見て話しかける教師の姿や、ずっと机を合わせてグループをつくったり、ノートをめくってこれまでの授業を振り返ったりする子どもの姿から、日常の取り組みの充実が伺えました。



こどもスゴイ!



子どもの状況に応じて、既習事項等をまとめた短冊を黒板に示して確認するなど、知識等の定着に向けた手立ても見られます。

中学校第3学年 学級活動 「今がベストになる生き方を！」

【授業の概要】

Aさんの進路選択当時の気持ちや現在までの気持ちの変化について考えることを通して、自分の将来に夢や希望をもち、自らの意思と責任で進路を選択しようとする覚悟をもつ授業



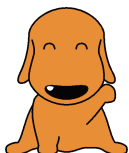
- 不安で自分の将来から目をそむけがちな子どもたちに対して、「もし、Aさんが志望校に合格していたら、このような考え方の成長はあったらどうか?」「もし、Aさんがさほど悩まず、志望校ではない高校に行っていたらどうなっていたらどうか?」と問い、**進路を決断する際の覚悟の大切さ**を伝えていました。子どもたちは先輩の事例に自分の将来を重ね合わせ、真剣に考えていました。先輩からのメッセージ等、教師の教材開発が具体的だったからこそ自分の未来と向き合うことができたのでしょう。



- 子どもの小さなリアクションを丁寧に拾って指名したり、「なぜ?」と理由を発言するよう促したり、子どもの反応をバリエーション豊かな手法で拾い上げていました。板書の9割が子どもの反応で構成されていました。

こどもスゴイ!

先輩の事例を教材化することで「教えねばならぬこと」を「教えたこと」に転換し、さらに子どもの「学びたいこと」につなぐ授業づくりが参考になります。



視点Ⅰ－４ 発言の取り上げ方

「発言を取り上げ、学級みんなのものにする」とは？

多度津町立多度津小学校 高木 幸枝 先生

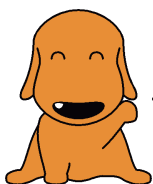
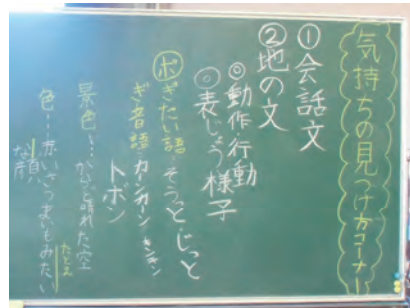
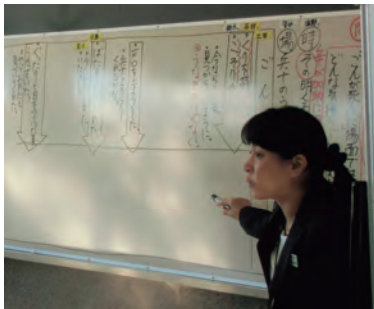
小学校第4学年 国語 「感想を伝え合おう『ごんぎつね』」

【授業の概要】

ごんが撃たれた場面を音読し、ごんと兵十を行動描写や情景描写から読むことを通して、互いのかかわりの中でのそれぞれの気持ちの変化について考える授業



- 子どもの発言に対して、他の場面との関連を示したり、本文に根拠を求めて問い返したり、**子どもの気づいていない箇所について教師が適切に指示**していました。
- 読書に結び付く活動を効果的に取り入れて単元を構成しています。このことにより、次の効果が得られやすくなります。
 - ・読書量を確保する。(より多くの物語、ものの見方や考え方に触れられたり、優れた記述に触れられたりする。)
 - ・教材文で学んだ読み方を自分の読みに当てはめる機会を確保する。
 - ・重ね読みや関係付ける読みによってより広い知識や深い理解につながる。
- 本時に身に付けさせたい力として、「気持ちの見つけ方コーナー」がヒントとして示されていました。国語係が作成したもので、子どもの自己有用感も大切にしながら、より効果的な学習につなげていました。



こどもスゴイ！

一人一人の学びを大切にするために授業規律が徹底されており、また、子どもが一人読みできるように鍛えられています。

小学校第6学年 算数 「場合を順序よく整理して」

【授業の概要】

既習事項を用いて自分なりの方法で考えを表現し、ペアや全体での学び合いを通して、落ちや重なりなく調べるために観点を決め整理する方法のよさを見付ける授業

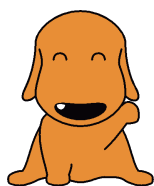


- 1問目では、本時の内容の見通しをもたせるために、教師が意図的（易→難）に発言を取り上げ、**方法の見通し、結果の見通しを子どもたちにもたせていました**。2問目は、話し合うところを焦点化した後、**自由な発言の中で全体交流を行う**というように、発言の取り上げ方を使い分ける技がありました。
- 交流活動では、一人で考える時間に「分かるところまで書く」という共通理解ができており、分からないから交流するということを教師と子どもが共通理解できていました。
- 分かっているところまで発言させること、全員が発表できるように意図的に指名していること、学び合いで出てきてほしい言葉を教師が想定し、それを価値付けていることなど、子どもへのきめ細やかな配慮がある授業でした。



ここもスゴイ！

あえてつまずかせて、そのつまずきに自ら気づかせ、次はつまずかないようにするというように、教師が意図をもって授業を展開しています。



視点Ⅰ－6 板書

「学習過程や結果が分かる板書」とは？

善通寺市立南部小学校 宮武 有奈 先生

小学校第5学年 道徳 「相手の立場に立って親切に」

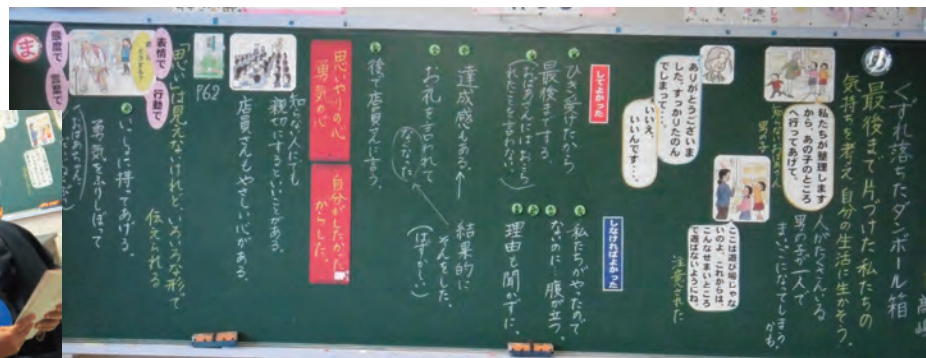
資料：くずれ落ちたダンボール箱（香道研）

【授業の概要】

最後までダンボール箱を片付けた私の心を考えることを通して、知らない人にも親切にすることの難しさやすばらしさに気づき、誰に対しても思いやりのある行動をしようとする態度を育てる授業

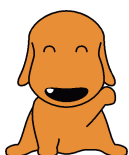


- 「誰に対しても親切にする」という、学年段階に合った内容を考えさせる授業で、**葛藤を捉えるため**に個人に持たせた心情円盤を使って登場人物の気持ちを考えさせていました。
- 終盤には、「私たちの道徳」に掲載された詩を使って親切について考えさせ、同じ詩が使用されたCM映像を見せて、本時のまとめである、これからの生き方を考える活動につないでいました。
- **子どもたちの意見に対応した整然とした板書**と移動黒板、ICT機器の効果的な活用も見られました。このことにより、情報が視覚的に整理され、黒板を見ると1時間を振り返ることができました。



こどもスゴイ！

ノートを持って、子どもたちが歩きながら自由に発表し合う自由交流を取り入れ、自分の生活に生かせることや考えたことを表現させています。



視点 I-8 グループ学習

「グループ学習によって効果が上がる」とは？

さぬき市立志度小学校 新開 宏典 先生

小学校第3学年 理科 「こん虫を調べよう」

【授業の概要】

バッタやトンボの体のつくりをチョウの体のつくりと比較しながら、観察するとともに、タブレット端末も活用して、昆虫は頭、胸、腹の三つの部分に分けられ、胸には脚が3対6本あることを理解する授業



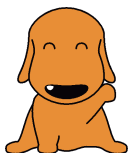
- 子どもたちに「本物」を見せたいという教師の思い、観察をするための教材集めや教材開発はたいへん参考になり、バッタやトンボなどの**集めにくい教材をしっかりと準備している**ことなどは、子どもたちの意欲的な取組につながっていました。



- タブレット端末を活用することで、①全体②体の部首③気になるところの確認といった手順で観察することができたり、既習のこん虫と比較して学ぶことができたりしていました。
- グループ学習では、**役割分担による効率的な観察ができており**、一人一人の気づきを比較したり、分類したりして学習が深められていました。また、グループで深まったり広がったりした自分の考えをワークシートに書き、個人での振り返りの時間をつくっていました。

こどもスゴイ！

「今日は何を観察するのでしょうか。耳をすませてごらん」という教師の声で、教室全体が静かになり、子どもたちの「学びたい」スイッチが入ります。



小学校第6学年 音楽 「音楽に思いを込めて ～花は咲く～」

【授業の概要】

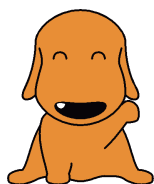
「花は咲く」の歌詞の内容や歌詞の表す情景及び作者の気持ちや思いが表現できているかを聴き合うことを通して、曲に込められた思いを感じ取って二部合唱する授業



- 「作曲者の思いを感じながら～花は咲く～を歌う」の学習課題のもと、まずは「二部になっている部分の音程をしっかりとる」活動と、子どもたちが**自らねらいを立てた後**のグループ活動を行ったので、自分たちの力で音程を取ろうとする**主体的な子どもの姿が見られました**。
- グループごとに歌唱を聴き合う場面では、聴き合う観点（音程をしっかりとって重なりを美しくする。「花は」の部分の歌詞の言葉をはっきり発音する等）が共有されていたので、聴き合った後は、自然に拍手が起こっていました。



- 「ねらい」と「ねらいを達成させるための方法」「振り返り」が一体化されていました。学習の過程が見える板書もたいへん参考になりました。



ココもスゴイ！

子どもたちの言葉を常に「笑顔」で受け止めたり、温かい雰囲気をつくったりすることで、子どもの素直な音楽表現を引き出しています。

【授業の概要】

圧縮袋を活用した簡易実験を通して、空気の層が寒さや冷たさを防いでいることについて実感を伴って理解し、自分の服のあたたかい着方を考える授業

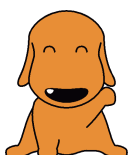


- グループで実験結果から考察する活動では、ワークシートに書いて**自分の考えを整理する時間を十分に確保**していました。友達との話し合いでは、「だから・・・?」「続けて・・・」など、**発言を促す助言**がありました。そのことで、単に結果のみを伝えるのではなく、そこから考えられる着方の工夫についてまで話し合いを深めることができました。
- 重ね着の効果について、布とビニールを身に付ける順番を変え、送風機を使って比較をする実験をするときには、「どうやったら寒さを比べられる?」と、**何のための実験なのかを確認**することで、ねらいを明確にし、「学び」のある活動にしていました。
- 圧縮袋を使った実験で空気の量を体感させたり、手袋やビニール袋を使った実験で重ね着のポイントを理解させたりするなど、実感を伴って考えさせることにより、重ね着の順番を考えるなど実践化につながっていました。



ここもスゴイ!

「結果を詳しく書いています」「〇〇さんの絵を使ってまとめましょう」など、褒め言葉をよく使っているので、子どもたちは自信をもって活動に取り組んでいます。



【授業の概要】

チームに合った練習方法を見つけて練習することを通して、予測されないプレーをするにはどうすればいいか、チームで有効な方法を考え、プレーの質を上げる授業



- **必然性もてる学習課題の設定、作戦の共有化ができる働きかけ等**を行うことで、子どもたちはグループで活動することの意味を理解し、効果的なグループ活動へとつながっていました。
- 本時のポイントであった、「作戦のタイミングを合わせる方法」について尋ねたところ、個々の考えが深まっていないようであったため、「ゲームを通して見つけよう。」と言葉がけを行いました。そのことにより、グループでの話し合いが始まり、合図を送るなどの方法が出されました。



- 作戦や動きを、**上から・横から・3D（斜めから）の3つの方向から確認できるボード**を用いることで、全ての子どもが理解できるような働きかけを行っていました。

ここもスゴイ！



まずシュート等の個の動きを保障し、次に作戦を考えるよう単元を構成しています。そうすることで、子どもたちは作戦の必要性を感じ、取り組むことができます。

中学校第3学年 国語 「古典を味わおう 『おくのほそ道』」

【授業の概要】

「おくのほそ道」の冒頭文に書かれている言葉に着目し、グループで考えを広げたり深めたりする話し合いを通して、芭蕉の旅に対する思いや人生観を考える授業

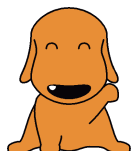


- グループ学習の前に、**自分の考えをワークシートに書いてまとめる時間が十分に確保されていたため**、作者の思いに迫るための話し合いでは、一人一人が意見を述べ、皆で話し合う中で、さらに考えを深めることができていました。
- 古典の作品を学習教材として扱うときは、ともすると教師の説明が中心になりがちですが、この実践では子どもに何を学ばせたいかが明確で、「自分と古典をどう結び付けするか」の視点から、授業を構成していました。
 - ・ 45歳の作者になりきって文章を読ませる。
 - ・ 資料集を活用して調べる学習に取り組ませる。
- 話し合いをグループに任せきりにするのではなく、机間指導をしながら、教師による積極的な助言・励ましや中間評価も行われていました。



ここもスゴイ！

事前の調査などから、「難しい」「なじみにくい」といった子どもの実態を的確に把握した上で、古文からではなく、まず口語文から導入する工夫があります。



中学校第3学年 音楽 「音楽を自由に構成しよう

～学校生活 チャイムのモチーフから～」

【授業の概要】

創作した音楽をより表現したいイメージに近づけるために、グループで意見交流することを通して、旋律や構成を工夫し、まとまりのある音楽をつくる授業

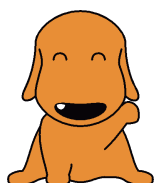


- 『計算しているところは・・・カリカリ♪』
『よし、できたぞー♪』というように、日常生活の様子を表現するには「モチーフ」をどのように反復・変化・対照させるとまとまりのある音楽になるか、子どもの感性に訴え、感じ取られるよう教師が模範を示す工夫がありました。
- グループ活動の中で、**子どもたちがやろうとしている工夫を適切に取り上げ、それを音や音楽にし、聴き比べることを通して、ねらいに向かわせていました。**
【例】「昨日を振り返り、できるように頑張る」場面で、モチーフの反復を工夫させながらまとまりのある音楽をつくらせる。
- 言葉だけでなく実際に楽器で音を出しながら交流させていたので、気持ちの高ぶりを表現するためにだんだん速くしたり、部活動の難しい練習の様子を表すために強弱をつけたりするなどの工夫をして自分たちのイメージに近づけることができていました。



ここもスゴイ！

音楽の授業だけでなく、常に音楽を身近なものや生活と結びつけることで、生涯にわたって音楽と携わっていかうとする子どもが育っています。



視点Ⅱ－1 考える力を育てる指導

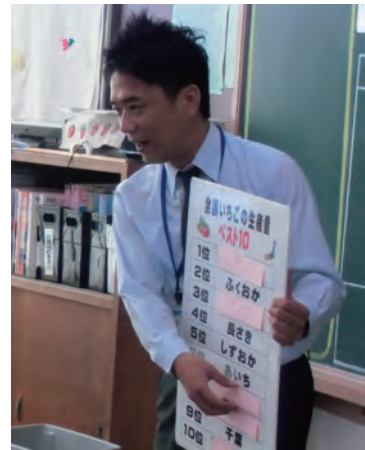
「考える力を育成するための言語活動を充実する」とは？

高松市立十河小学校 真鍋 長嗣 先生

小学校第3学年 社会 「はたらく人とわたしたちの暮らし
～いちごをつくる人はどんな暮らしをしているの～」

【授業の概要】

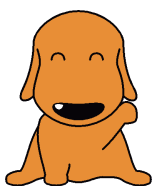
地域のいちごづくりのこれからの在り方について、これまでの学びを基にどう取り組んでいけばよいかを討論することを通して、自分の考えを広げ深める授業



- 社会科の思考は、対象となる**社会的事象について事実に基づいて自分の考えを表現することで育ちます**。子どもたちの話し合いの中で、教師が適切に「それはどういうこと？」や、「もう一度話して」と立ち止まらせたことで、話し合いにリズムが生まれました。
- 学習問題設定の後、あえて「何のために討論するの？」と子どもに問いかけ、その目的を確認したことで、子どもの思考がぎゅっと焦点化されました。



- 子どもに見えている社会（見学から生まれた子どもの取組アイデア）と大人の社会（先進地の「ミガキイチゴ」の取組）を比較させることにより、「十河いちご」の今後の取組について実現可能かどうか吟味することができていました。



こどもスゴイ！

子どもたちのノートには書き方のルールがあり、資料の加工で意欲付けを図ったり、価値付けたりしていることが積み上げられています。

小学校第4学年 社会

「きょう土を開く ～満濃池を開発した先人のはたらき～」

【授業の概要】

西島八兵衛の優れた技術と何度も「ゆるかえ」をしてきた人々の努力との両面から220年以上も満濃池が壊れなかった理由を考える授業

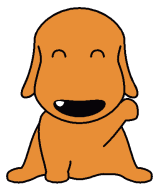


- 目に見える事実をもとに、目に見えない意味を考えさせようとした授業です。「なぜ西嶋八兵衛が造った堤防は220年以上も長持ちしたのか」など、魅力ある問いで単元を構成していました。
- **事実認識→問い→予想→調べ→検証→まとめ（概念化）の過程がしっかりしている**ので、資料から分かる気付きに引っ張られることなく、学習問題の解決を念頭に活動を進めることができていました。
- 空海の業績との比較が、西嶋八兵衛の造った堤防が長持ちした理由を予想したり調べたりする手がかりとなっており、子どもが問題解決の見通しをもち主体的に学習に取り組んでいました。



こどもスゴイ！

発表の時は、結論から述べさせることによって筋道を立てた話し方をさせ、「だから？」と意味を問い直すことによって学習問題を意識させています。



小学校第1学年 算数 「まなびをいかそう

『よみとるさんすう(1)』

【授業の概要】

日記の中から必要な数値や情報を読み取り、ブロック操作や図にかく活動を通して、立式した理由について根拠をもって説明する授業



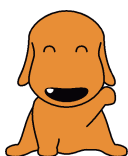
- **情報過多の問題を提起し**、与えられた問題から必要な情報を選択し、的確に処理する力の育成を目指した授業でした。子どもたちは、本当にこの情報が必要かどうかを検討したり、絵と言葉をつないで説明したりしながら考えを深めていました。



- 「あれ?どの数字が必要なの?」という迷いが生じるような情報を加えておくことにより、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を高める工夫が見られました。
- 学んだことの理解を深めるために、立式した理由について、**根拠をもって相手に説明する活動**が取り入れられていました。

こどもスゴイ!

本時で身に付けさせたい力を明確にし、授業のまとめから逆向きに授業展開を構成しているので、学習課題とまとめの整合性が確実にとれています。



小学校第6学年 理科 「太陽と月の形」

【授業の概要】

月の形の見え方を調べることを通して、月の位置と太陽の位置を関係づけて考え、月の形の見え方は、太陽と月の位置関係によって変わることを推論する授業



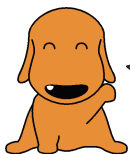
- 「朝の月はどこにどのような形で見えるのだろう。」という教師の問いかけは、すぐには分からない困難な問題でしたが、本時の学習や生活体験をもとに、**課題解決に挑戦しよう**と**思考する子どもの姿**が見られました。
- 「答えを見つけない」と思わせる課題設定が児童の主体的な学びの場をつくりだし、推論する力をはぐくむための思考場面につながっていました。



- 子どもが自分の考えを表現する場が設けられていました。「自分の言葉でまとめる欄」と「学級全体の考えをもとにまとめた欄」が設けられたワークシートを活用することで、自分が何を学んだのかを確認でき、子どもが学びの成長を振り返るよきツールとなっていました。

こどもスゴイ!

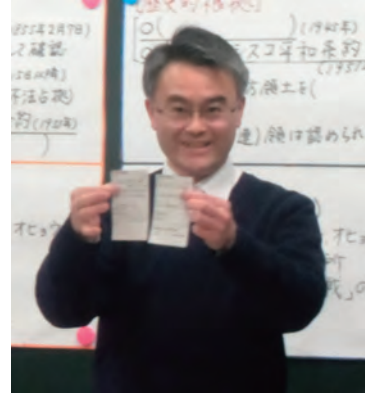
本時の「振り返り」では、子どもたちが学んだことを生かそうとする思いや、科学の不思議等を感じる心をはぐくむ機会にもなっています。



中学校第3学年 社会 「世界平和の実現をめざして」

【授業の概要】

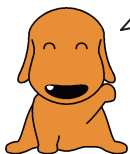
北方領土の問題について、地理、歴史での学びを確認しながら問題認識を深め、その上で、豊富な資料に基づいて、対立を合意へと導くための方策を考えさせる授業



- 北方領土について、位置、大きさ、島名、歴史等を振り返り、北方領土がわが国の領土であることを確認することから始まりました。教師自身が北方領土に渡ったときの写真や日本人の元島民、ロシア人の現島民のインタビュー動画などから、問題の本質を**多面的・多角的に考えさせる工夫**がありました。
- 明確な指示や柔らかい語り口調など、授業を安心感が包んでいます。「〇〇さん、いいことが書けていますね。読んでください」「わからないことがあったら、周りの人と相談してみましよう」と、テンポよく子どもの言葉を拾い上げたり、状況に応じて適切に助言したりします。
- 桑島先生の授業では、社会科の考える力とは、**資料等から見つけた根拠に基づいて考える力**であることを再認識させられます。子どもたちは、「インタビューで〇〇さんがおっしゃっていたように」などと、学んだことを根拠にして話し合うことができていました。



こどもスゴイ!



ワークシートを活用し、用紙を細かく分けて必要な場面で配布し作業させるなど、見通しを持たせるとともに、子どもたちを飽きさせない工夫が見られます。

中学校第2学年 数学 「図形の調べ方」

【授業の概要】

4人グループで、星形多角形の内角の和の求め方を考え、数学的表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う授業



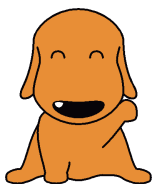
- 子どもたちが見いだした図形の性質に、子どもの言葉で名前を付けていました。「矢じり型」や「ちょうちょう型」など）このことは、子どもたちが**方法の説明において、「用いるもの」としての図形の性質を意識**することにつながっていました。
- 「ここを延ばしたら、前と同じ形になる。」とか「1個増えたら180度増える。」といった不十分な表現ではあるが、演繹的に考えを進めたり、帰納的に考えを進めたりすることの基になるつぶやきを大切にしていました。また、これらを**数学的に表現し直す場面を設定**するなど、子どもたちが主体的に学習を進めるための工夫が見られました。



- 「先生見てよ。」「ここ、延ばしてもいいの?」「あー分かった。」「・・・」こういった声がたくさん聞こえてきました。教室をつつむ支持的な雰囲気は、日常の関わりの成果を表していました。

子どもスゴイ!

「昨年度の公開授業の反省に基づいて、今回はこうしました。」という言葉。授業改善に取り組む姿勢が、子どもたちに良い影響を与えています。



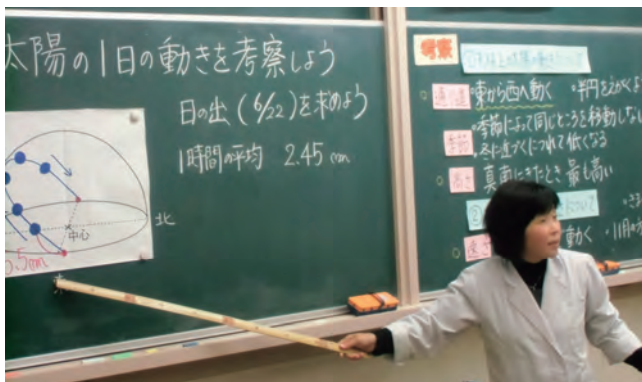
中学校第3学年 理科 「地球の運動と天体の動き」

【授業の概要】

透明半球の観察記録から太陽の動きを調べ、観察結果をもとに話し合う活動を通して、太陽の動きの規則性を見出すなど、考察を深める授業

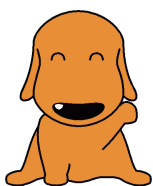


- **少し困難な課題を取り入れ**、実験結果をもとにした深い考察によって答えを導き出す学習活動の場を設けることで、挑戦する姿勢を育んだり、答えを導き出した達成感を味わわせたりする工夫がありました。
- 子どもが自分の考えをより深めるために、**子どもの発言の中から新たな疑問を投げかけ**、思考のヒントとなるツール（提示用教具、配布用カード等）を示す支援がありました。
- 教師の説明や指示が精選されているので、子どもの思考が途切れず、話し合いが充実していました。また、ワークシートには自分の意見と友達の意見を書く欄があり、自分の考えをもつ時間と班で思考を深める時間が十分に確保されていました。



こどもスゴイ!

話し合い活動を継続することで、発言を肯定的に受け止める人間関係ができ、話し合いを深めるコミュニケーションスキルが育成されています。



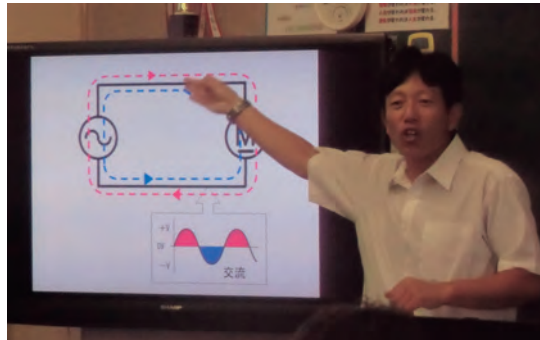
中学校第3学年 技術・家庭 「ダイナモ発電ラジオの製作」

【授業の概要】

交流発電機でプロペラを回転させる実験をし、グループでプロペラが回った理由を考えることを通して、発電した電流を整流するためのしくみについて理解する授業

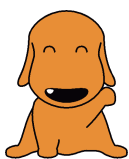


- プロペラが乾電池で回るかどうかを見せ、教師は「なぜ、プロペラは回らない?」「なぜ、交流だと回らない?」と問いをもたせ、**回った、回ってないだけでなく、よく観察して理由も考えさせる**よう促していました。そのことで、子どもたちは「電流の向きが一定でないから」と自分で答えを見つけることができていました。
- 回転しなかったプロペラが、部品一つを使うことで回転するという実験を通して、小さな半導体部品も**具体的に仕事をしていることを実感させ**、それが社会の中でどう役立っているのかを考えさせる場面がありました。
- 子どもたちにとって交流発電機がどのような電流を発生しているのかイメージすることは難しいので、教師がつくったアニメーションを効果的に使って説明し、理解の助けとしていました。



こどもスゴイ!

子どもの知的好奇心を高めるために、全員が取り組める共通の課題とは別に、発展的な課題を設け、主体的に発展問題にチャレンジさせています。

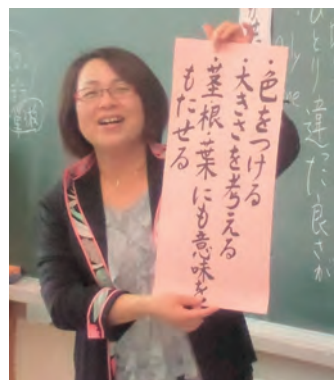


中学校第1学年 道徳 「自分を好きになる」

資料：世界に一つだけの花（「かけがえのないきみだから」学研）

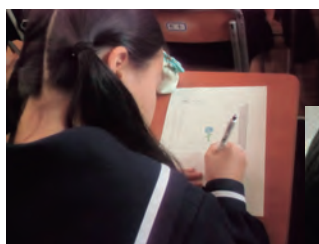
【授業の概要】

読み物資料「世界に一つだけの花」を読んで主人公の心の中を考えた後、「自分が咲かせたい花」を描き、グループでその理由を伝え合う活動を通して、中心価値に迫る授業



○ 学活の時間で行ったストレングスカードの取組を振り返る場面から始まりました。「自分のよさを見つけるのは難しかった」「友だちがよさを伝えてくれてうれしかった」などの感想が見られ、温かい雰囲気の中で授業が進んでいきました。

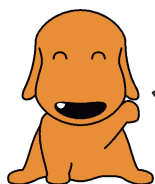
○ 授業の後半で、それぞれが「自分が咲かせたい花」を、色鉛筆を使って描きました。まず、**自己の個性や思いをしっかりと考え、それを花に表すという活動**です。花の絵の下には、どうしてそのような花を咲かせたいのか、その理由を記述していました。



○ グループごとに、自分が咲かせたい花を説明していきました。「みんなを支えられる力強い人になりたいので茎を太くしました」「周りの人を幸せにしたいので、この花のように明るくやさしい人になりたい」等、生徒たちは生き生きと伝えていました。

ここもスゴイ！

さりげないつぶやきを上手に吸い上げたり、教師が言い換えたりと、子どもの言葉で授業がつけられています。子どもが信頼感と安心感をもって授業にのぞんでいます。



中学校第2年 道徳 「真の友情・思いやりとは」

資料：健二の迷い（「モラルジレンマ資料と授業展開」明治図書）

【授業の概要】

道徳的価値葛藤（モラルジレンマ）を集団討議（モラルディスカッション）によって解決に導く過程を通して、真の友情とは何かを考える授業



○ 子どもへの指示や、意見を取り上げる
とき、**教員の発する言葉が精選されているため、「静」の時間が十分に確保**されて
いました。そのため、学ぶ雰囲気の中で、
子どもたちはじっくりと考えを深めることができていました。

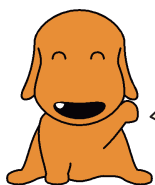
○ これまでの道徳の時間の積み重ねにより、子どもが話し合いに意欲
的・自主的に取り組んでおり、話し合いを通して道徳的価値の自覚に迫
らせようとしていました。

○ 子どもの身近にありそうな内容のモラルジレンマの資料を扱い、意
欲を喚起していました。個々に考えた後で、黒板に名前磁石を貼らせ
て自分の考えを明確にし、討論を行いました。自分の考えを主張する
だけではなく、別の考えを聞いて考えたことを話し合いました。



こどもスゴイ！

一人一人の考えが尊重され、安心して考えが述べられる
雰囲気ができているので、子どもは自分の考えを最
後まで言い切り、最後まで聞こうとしています。



視点Ⅱ-2 話し合う力を育てる指導

「話し合いの課題を明確にする」とは？

高松市立円座小学校 木下 志乃 先生

小学校第6学年 国語 「感動の中心をとらえよう 『海のいのち』」

【授業の概要】

「海のいのち」の太一的心情を一人読みでとらえ、文章表現の工夫等を手がかりに太一的心情の変化とその理由についてペアで話し合うことを通して、自分の考えを明確にする授業



○ 一生懸命考えて話し合う学級にすることや、そのことを通して自尊感情を高めることをねらった授業でした。昨年度から**授業の中で話し合う活動を意図的に組み込み**、子どもたちは考えていることを伝えられるように成長してきています。

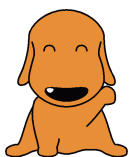
○ 「海のいのち」は、読んで考えたり、感じたりしたことを交流することによって自分の読みを振り返り、もっと読んで考えてみたいと思わせる物語文です。分かりにくさが子どもの読みたい気持ちのエネルギーとなっています。

○ 子どもが一人で読むことができるように、全文プリントに自分の考えや感じたことを書き込む時間を設定していました。このことを繰り返しているため、分からないことがあるときには、文を読み返す習慣が身に付いてきています。



こどもスゴイ！

子どもたちのノートには、これまでのペア対話でのやりとりや自分の意見がしっかりと書かれています。自分たちの成長が目に見える形で残っています。



小学校第2学年 生活 「おもちゃまつりをひらこう」

【授業の概要】

自分たちでつくったおもちゃで遊びながら気付いたことを友だちに伝え合う活動を通して、おもちゃを改良したり、さらに楽しく遊ぶための約束やルールを工夫したりする授業

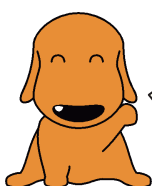


- 「よっしゃー」で始まり、「えーはやっ」というつぶやきで終わるおもちゃづくりの活動は、「もっと速く走るおもちゃにしたい」「高く跳ぶおもちゃにしたい」と願いをもち、試行錯誤する子どもたちの姿が溢れていました。**体験活動が充実している**からこそ話合いが盛り上がっていました。また、支持的な雰囲気ができている学級だからこそ、安心して自分の考えが述べられていました。
- 「なるほど、おもしろい」と子どもを称賛したり、「書けてないけど、頭の中には（考えが）あるんやろ」と子どもののびしろに期待する助言をしたり、一言一言が子どもの自己有用感を育てていました。
- 直接的・具体的な活動の中で子ども一人一人の気付きをワークシートに表現させたり、「信じて待つ」「認めて称賛する」という適切な支援を通してうまく気付きを表出させたりすることで、次の活動のめあてや意欲につなげていました。



こどもスゴイ！

体験させる場では、子どもの反応を読み切り、超えられる壁かどうかを的確に見極め、教えるべきことを教え、鍛えるべきところを鍛えています。



小学校第5学年 学級活動

「1年生と楽しくふれあえる紙飛行機フェスティバルをしよう」

【授業の概要】

みんなが楽しめるフェスティバルにするための方法を話し合う活動を通して、たくさんの意見を整理し、折り合いをつけながら集団決定をしていく授業

- 学級活動ノートを活用して子どもの考えを事前に把握し、本時の話し合いの中で育てたい力を、「考えを広めたり、いくつかの考えをまとめたりする力」に絞り、本時の集団決定までの流れを、前もって計画委員と打ち合わせていました。

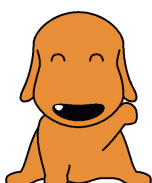


- 教師は司会を子どもに任せているが、話し合いが混乱したときやめあてからそれたときには適切なタイミングで指導・助言を行っていました。
- 授業の最後に、本時の話し合いを振り返り、「どこが前回の話し合いより成長したか」を価値付けていました。



ここもスゴイ！

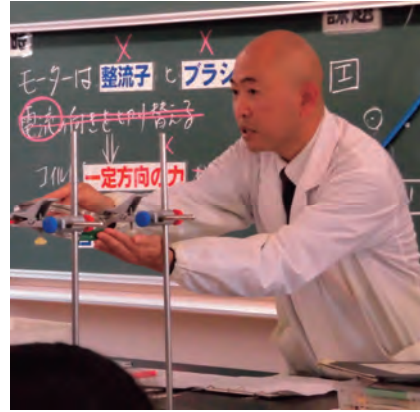
司会を行う計画委員は輪番制とし、どの子どもも司会ができるように計画するなど、卒業時の子どもの姿を思い描き、計画的に指導をしています。



中学校第2学年 理科 「電流と磁界」

【授業の概要】

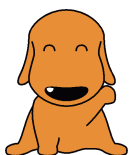
クリップモーターはなぜ回り続けることができるのか、コイルにはたらく力に着目し、班での交流を通して、クリップモーターの原理を見出す授業



- 能動的な学習活動を促す課題設定が適切になされています。教師が一方的に与えるのではなく、全体で既習知識を整理・確認しながら、**機をとらえて子ども自らが考えてみたくなる実験教材を与える**など、導入時における授業構成の工夫がありました。
- 子ども同士の話合いを深めるために、**共通の思考ツール**（本時は空間図形を平面図形に表したもの）を個々に持たせる丁寧な指導がありました。
- 教師が事前に小学校の教科書を用いて既習内容を確認するなど、学習内容の系統性を大切にされた授業を構成しています。また、子どもの実態については、事前のアンケート結果を数値化するだけでなく、日常の何気ない会話からも把握するようにしています。



こどもスゴイ！



聞かせる場面では、必ず筆記用具を置かせるなど、授業規律の確立を常に意識しており、やってはいけないことには、毅然と対応しています。

中学校第2学年 美術 「ゲルニカ ～明日への願い～」

【授業の概要】

五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）を使って鑑賞することを通して、作品の持つ臨場感を感じ取らせ、ピカソがゲルニカで表現したかったことについてより深く考え、理解する授業

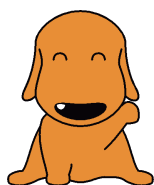


- 授業の導入で、大型スクリーンにピカソの「ゲルニカ」を映し出し、「絵の中に入ってみよう」「触ってみると何か分かるかもよ」「耳を近づけると何か聞こえるかもよ」と語りかけました。**五感を研ぎ澄まして絵画作品を鑑賞させるという手法**は、子どもと作品との心理的な距離をぐんと縮めます。子どもは、大人には感じることはできないかもしれない豊かな感覚で、「土の肌触り」「血の匂い」「埃の臭い」「炎の熱さ」などを感じていました。
- 教師が子どもたちの発想を本気で面白がっていることは子どもたちに伝わります。自由に発表できる学級づくりや、子どもが話し合いになる授業技術はぜひ伝承したい技です。
- グループでの話し合い活動では、グループごとに扱うモチーフを分ける工夫があり、**論点が焦点化**されていたので、活発な意見交換が行われていました。



子どもスゴイ!

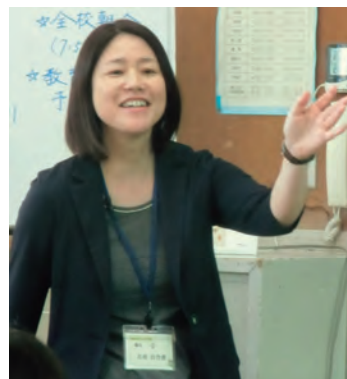
子どもの質問に対して、すぐに教師が回答するのではなく、他の子どもに広げるなどして、子どもの話し合いを活性化させています。



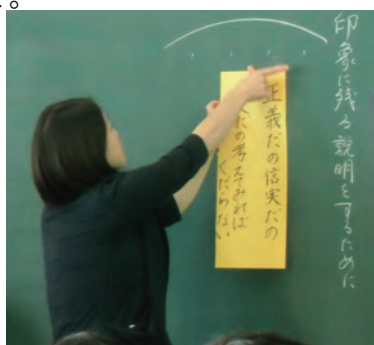
中学校第2学年 国語 「走れメロス」

【授業の概要】

友だちとの交流を通して深めたメロスに対する思いについて、自分の言葉で具体的な文章を書き、書いた内容を、既習事項を踏まえてプレゼンテーションする授業

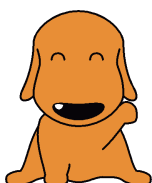


- 授業の始めに言語事項の確認テストを行い、子どもたちの授業に参加する意識を高めていました。テストは、**学力の幅を考慮し**、読み書きと四字熟語で構成されており、答え合わせでは**意図的な指名**によって子どもが活躍できるように工夫していました。
- 前時の学習と関連付けたワークシートを活用し、前時に集めた材料（メロスの言動）を基にして、プレゼンテーションで伝えることの段落構成を考え、文章を書かせる工夫がありました。また、**活動の途中で、適切な段落構成を示すヒントカードを配布**したことにより、書くことに抵抗のある子どもが取り組みやすくなっていました。
- 授業の最後に行っていた子どもによるプレゼンテーションは、他の子どもの良いモデルとなるとともに、次時の見通しにつながっていました。



こどもスゴイ！

簡単にヒントカードを提示せず、様子を見守るとともに、意図的なグループ編成により、子どもが自然に関わり合いながら学習を進めることができます。



Ⅲ おわりに

総合授業カリーダーの先生方には、授業を公開するに当たって、次のようなお願いをしました。

(1) 3つの「わ」がある授業を

わくわくの「わ」、わらいの「わ」、そして、わかるの「わ」。授業をする際に、いわゆる「研究授業」をイメージして新しい提案性のある授業を試みるよりも、「示範授業」をイメージして、日頃、実践されている普段着の授業をお願いします。リーダーの先生方が当たり前と感じている匠の技を、香川の宝として伝承することが、本事業の本質です。参観する先生方が元気になる授業を期待しています。

(2) 「さぬきの授業 基礎・基本」の具現化を

そのために、「さぬきの授業 基礎・基本」の活用をお願いします。本時の授業が成立する要因のいくつかは、必ずこの中にあるはずです。それを指導案作成時に、予めピックアップしていただき、参観の視点としてください。本年度は、本冊子の11項目から1項目以上を選び、授業を観る視点を明示してください。

(3) 育った結果より育てている過程を

育った結果よりも、今まさに育てているところを公開していただく方が、参観者の学びが大きいはずです。参観の先生方は、「分かった」「できる」子どもだけでなく、「分からない」「できない」子どもに、いかに手立てをうっているのかを見たいと感じています。

(4) 事後討議では、本時に至るまでの日常の積み重ねを

事後討議では、授業者による授業説明の時間をたっぷりとってください。研究授業の事後討議のように「成果と課題」が討議の柱になるのではなく、「本時の、あるいは普段の、どのような授業者の営みが、本時を成立させているのか」を明らかにすることが討議の目的です。本時を支える普段の教科経営、学級経営、教材研究等について、蓄積してきたノウハウや独自に開発された教具等の具体物を示しながらのご説明をお願いします。

(5) 参観者の発言しやすい雰囲気づくりを

若い先生方の参観が増えることが想定されます。「どうすれば、このような子どもが育つのだろう」という問いが発せられるよう、ワークショップ型の討議を取り入れる等の工夫をお願いします。

総合授業カリーダーの先生方には、見事にこの期待に応えていただき、参観の先生方に、さぬきのよい授業のイメージや指導技術を伝えていただくことができました。明日からすぐ真似てみたい授業も、いつかはやってみたいあこがれの授業も、その両方を示していただいたことに、心から感謝しております。

本冊子が、指導技術の伝承や日々のさらなる授業改善の一助となることを心から願っております。

授業改善 5つの視点

「学びのときめき」のある授業になっていますか？

1 課題設定

少し困難な課題を取り入れ、「挑戦」する態度を育てていますか。

子どもがある目標を実現したいと思い、その目標の実現のために多少の困難さが伴うとき、その事象は子どもにとっての課題となります。

「すぐには分からない。でも、粘って取り組めば何とかできるかも。」と子どもが思うような課題も授業の中に取り入れ、「挑戦」する態度を育てましょう。

拓也さんが作った表の1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答えなさい。

拓也さんが作った表

	1回目	2回目
文房具	201	212
ハンカチ・タオル	49	28
その他	55	50
落とし物の合計	305	290
落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)	20.3	19.3

平成 27 年度全国学力・学習状況調査 中学校 数学B 国

この問題を解くのに必要な情報はどれかな？



2 見通し

「方法」に加えて、「結果」も予想させていますか。

「どうしたらよいか」という方法の見通しに加えて、「どうなるのだろうか」と、結果の見通しをもたせることで、自分の予測や仮説等が正しいかどうか「分からないから学習しよう」という学習意欲につながられます。

「授業展開を予め理解すること」だけでは、「授業」は「作業」になってしまいかねません。

どうなるでしょう。どうしたらよいでしょう。

ドキドキ
ぼくは、こうなると思うよ。でも、あっているのかなあ...



3 言語活動

相手意識をもたせて、発言させていますか。

授業で「交流」を仕組む目的は、自分や相手の考えを広げたり深めたりすることです。お互いに意見を「表明し合う」だけでは意味がありません。

どのような理由や根拠をどのような順番で話せば自分の考えが相手に伝わり、理解してもらえるか、という相手意識をもって、発言させることが必要です。

ぼくは...

ぼくの見解は〇〇です。

わたしの意見は〇〇です。

わたしは...

順番に発表してその後、シーン...これって「交流」？



4 振り返り

その授業で自分が何を学び、どう変わったかを実感させていますか。

振り返りでは、学習内容を「まとめ」として振り返るだけでなく、自分が何を学び、どのような変容があったのかを実感できるような工夫が大切です。このような振り返りができると、学んだことを次に生かそうとする、学習意欲もはぐくまれます。

まとめ

学んだことの定着のために重要

受粉したホウセンカの花粉は数分で花粉管を伸ばし始め、時間の経過とともに花粉管が伸びていく。

感想

学習意欲をはぐくむために重要

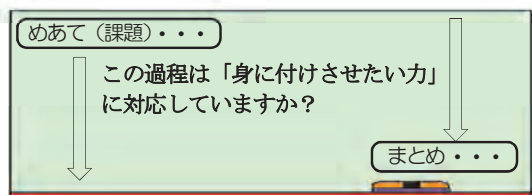
花粉から管が伸びるなんて予想外で驚いた。細胞が生きていることが実感できた。植物も子孫を残すために懸命に活動している。生命の神秘性を感じられているね。



5 授業全般

その授業で子どもに「身に付けさせたい力」が書けますか。

授業の活動は、子どもに「身に付けさせたい力」を付けるためのものになっていますか。教師が指導しすぎることで子どもの思考場面を奪ったり、主体性をはぐくむという名目で放任しすぎたりする授業にならないよう、十分注意することが必要です。



たとえば、「力」を教師用の授業案に付箋で貼れますか？

